

平成23年度 掛川市

決算報告

平成23年度一般会計・特別会計決算が
まとめ、9月の市議会定例会で認定され
ましたので、お知らせします。

問 財政課(☎ 21-1197)

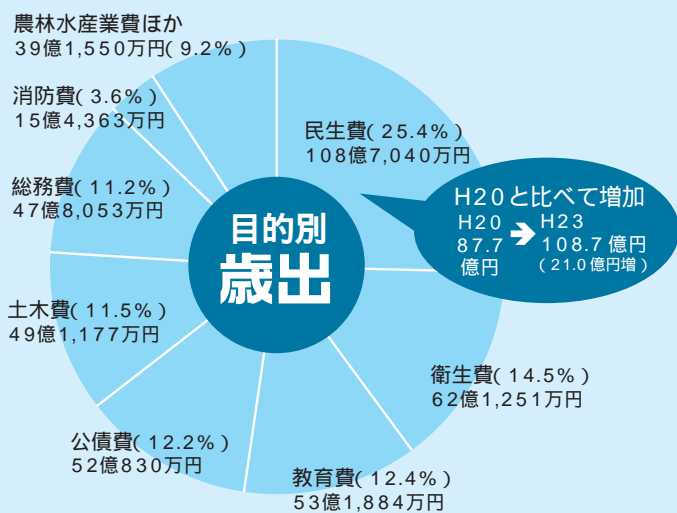
歳出額 427億6,148万円(前年度比10億1,411万円減)

歳出の特徴としては、

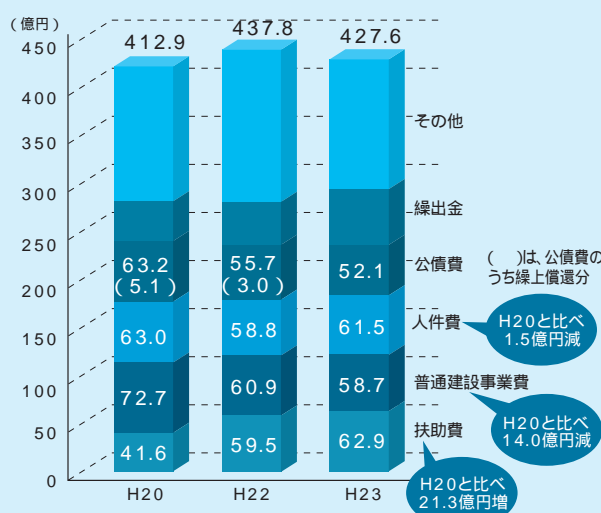
資金不足解消と企業債繰上償還のため病院事業会計へ24億8,000万円を繰り出したこと。
平成25年5月1日に開院予定の中東遠総合医療センター関連事業に4億829万円、アクセス道路整備に4億4,379万円
支出したこと。
新市建設計画推進のため合併推進道路(南北道)整備事業に9億559万円、(仮称)南部体育館建設事業に1億4,302
万円支出したこと。
などがあげられます。

性質別では3年前の平成20年度と比較すると、扶助費が大きく増加しています。これは、高齢者人口が増加したことや子
ども手当などにより社会保障関係経費が大きく増加しているためです。市では、行財政改革に取り組み職員数を平成17年
度比で104人減らすなど、人件費や公債費の削減に努めていますが、社会保障経費(扶助費)の増加が大きく、他の経費
を圧迫している状況です。

歳出(目的別)の内訳



歳出(性質別)の推移



平成23年度における主な事業の決算額

民生費《高齢者福祉や子育て支援などに》	土木費《道路や橋などの建設費に》
高齢者福祉事業 4億2,396万円	合併推進道路(南北道)整備 9億559万円
子ども手当 23億6,214万円	新病院アクセス道路整備 4億4,379万円
放課後児童健全育成事業 1億1,430万円	総務費《自治区振興や市役所経費などに》
保育園にかかる経費 17億5,283万円	公共交通対策(天浜線、バス) 1億7,212万円
衛生費《健康づくりやごみ処理、公衆衛生費に》	新病院建設推進事業(負担金) 1億665万円
子ども医療費助成(小学校4~6年生通院助成開始) 3億4,192万円	自治活動支援(コミュニティ施設整備など) 1億204万円
病院事業会計繰入金 24億8,000万円	地域環境整備調整事業 3億5,027万円
病院建設基金積立金 3億164万円	消防費《消防・救急や地震津波対策に》
地域健康医療支援センター(ふくしあ)にかかる経費 6,079万円	中東遠消防指令センター整備負担金 2億9,129万円
ごみ処理にかかる経費 11億1,125万円	消防団活動 2億1,223万円
教育費《学校施設の建設費や学校教育などに》	地震・津波対策など防災対策 1億4,395万円
小中学校耐震化・改築 1億4,214万円	農林水産業費ほか《農業や議会、商工労働に》
(仮称)南部体育館建設事業 1億4,302万円	産業立地奨励事業費補助金 2億6,644万円
さかがわ幼稚園改築 3億197万円	緊急雇用対策 2億6,071万円
学校給食にかかる経費 10億3,495万円	経営体育成基盤整備事業(西大淵、山崎、下土方、大淵) 2億255万円
公債費《借入金の返済に》	
償還金 52億830万円	

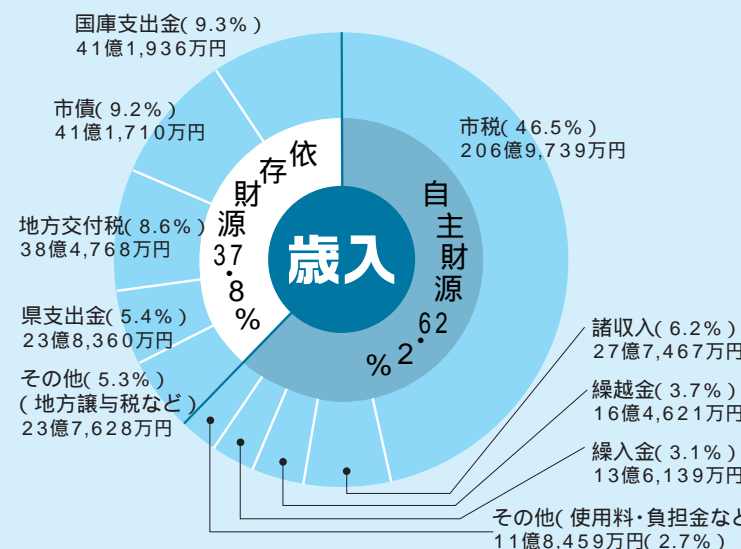
一般会計の概要

歳入額 445億827万円(前年度比9億1,354万円減)

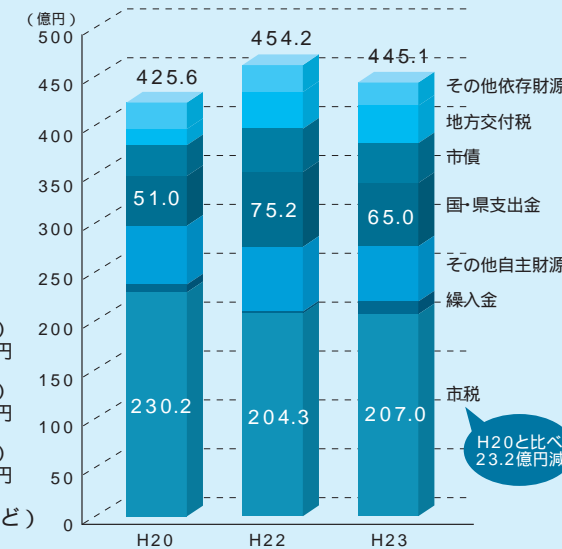
歳入の特徴としては、

市税収入は3年ぶりに増加し、前年度と比べ2億6,988万円の増収となったこと。
病院事業会計の資金不足解消などに、財政調整基金を取り崩したことなどにより、繰入金が前年度から12億935万円増
加したこと。
地方交付税・臨時財政対策債が、国の地方財政対策の縮小により前年度から9億6,150万円減少したこと。
国の緊急経済雇用対策が一段落したことなどにより、国・県支出金が前年度から10億1,743万円減少したこと。
などがあげられます。
歳入の半分弱はみなさんから納めていただいた市税で賄われています。しかし、その市税も3年前の平成20年度と比較
すると世界同時不況の影響などにより約23億円減少している状況です。

歳入の内訳



歳入の推移



納めていただいた市税を1人あたりに換算すると 179,715円

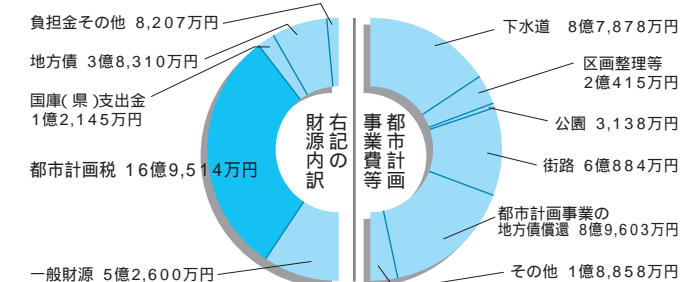
固定資産税	市民税	都市計画税	市たばこ税	軽自動車税	入湯税	特別土地保有税
87,749円	68,004円	14,719円	6,552円	2,273円	379円	39円

都市計画税の用途

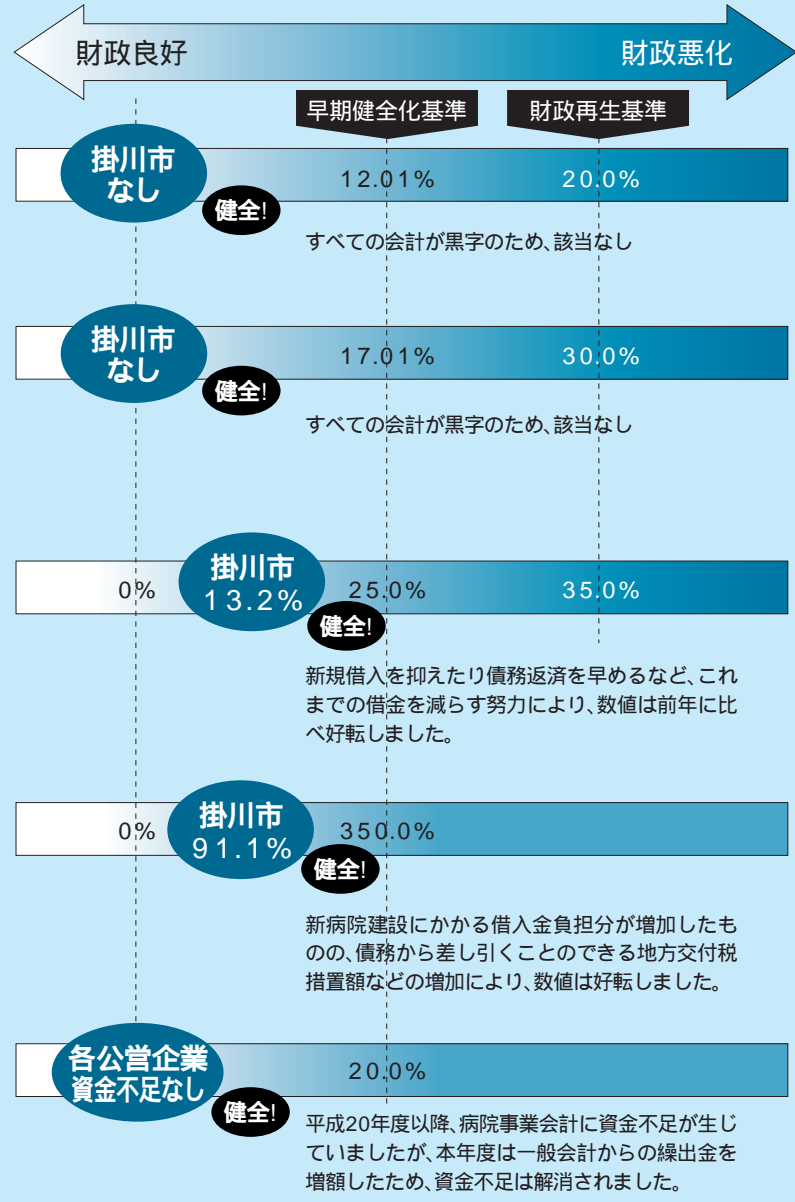
都市計画税は、都市計画事業に要する費用に充てるた
めに課税される目的税です。
平成23年度は、街路、公園、下水道、区画整理などの各
事業と、都市計画事業のために借り入れた地方債の償還
に充てられました。

都市計画事業費等合計
28億776万円

都市計画税が使われた事業とその財源内訳(平成23年度)



掛川市の財政の健全性



実質赤字比率
普通会計での赤字の比率

H21	H22	H23	対前年度比
なし	なし	なし	-

連結実質赤字比率
普通会計と公営事業会計を合わせた全会計での赤字の比率

H21	H22	H23	対前年度比
なし	なし	なし	-

実質公債費比率
普通会計の借入返済額の比率（家計に例えると、1年間のローン返済額が臨時的な収入を除く年収に占める割合。ローンが家計をどれだけ圧迫しているかを表す。）

H21	H22	H23	対前年度比
16.0	14.3	13.2	1.1

将来負担比率
普通会計が将来負担すべき実質的な負債残高の比率（家計に例えると、借金総額が年収の何倍になるかを表す。）

H21	H22	H23	対前年度比
130.3	94.1	91.1	3.0

資金不足比率
各公営企業会計での事業規模に対する資金不足額の比率

H21	H22	H23
病院事業会計 3.1%	病院事業会計 10.6%	各公営企業会計なし
他の各公営企業はなし	他の各公営企業はなし	

普通会計とは、一般会計および公共用地取得特別会計、掛川駅周辺施設管理特別会計の3会計を合算したものをいいます。

掛川市が将来負担すべき負債

市債や公営企業の債務の削減に努めましたが、新病院建設にかかる地方債負担分が16億3,000万円ほど増加したため、将来負担額は前年度より3,000万円ほど増加して860億円となり、前年度とほぼ同じでした。

将来負担額 860.1億円
市民一人当たり 746,822円

普通会計の地方債残高	465.8億円
債務負担行為に基づく支出予定額（幼保園の建設債務など将来にわたる支出が予定されているもの）	82.0億円
他会計地方債残高（普通会計負担分）（公共下水道などの特別会計への繰出見込額）	176.6億円
一部事務組合等地方債残高（普通会計負担分）（環境資源ギャラリーなどの一部事務組合への負担見込額）	47.8億円
退職手当負担見込額	67.9億円
土地開発公社負債額（普通会計負担分）（公社の長期借入金や未払金に対する負担見込額）	20.0億円

控除財源 653.5億円
市民一人当たり 567,432円

地方債の償還等に充当可能な基金（借入金の返済に充てることができる積立金）	73.9億円
地方債の償還等に充当可能な歳入（借入金の返済に充てることができる歳入）	164.2億円
地方債残高に係る普通交付税基準財政需要額算入見込額（借入金に対して国が地方交付税により交付するもの）	415.4億円

将来負担比率算出において、上記の控除財源を将来負担額から差し引いた額が実質的な負債額とみなされます。

平成23年度各種会計決算の状況

歳出総計 778億2,636万円

市には、一般会計の他に、13の特別会計と2つの企業会計があります。これらをすべて合わせると、歳入総額は800億6,183万円、歳出総額は778億2,636万円となりました。

会計	区分	歳入(収入済額)		歳出(支出済額)		対前年比(%)	差し引き A - B
		A	B	A	B		
一	般	445億827万円	427億6,148万円	97.7	17億4,679万円		
特 別 会 計	国民健康保険	111億7,628万円	106億8,517万円	106.0	4億9,111万円		
	後期高齢者医療保険	8億9,815万円	8億7,745万円	98.9	2,070万円		
	介護保険	76億9,999万円	76億1,834万円	103.5	8,165万円		
	公共用地取得	3億7,856万円	1億3,462万円	90.2	2億4,394万円		
	駅周辺施設管理	1億1,792万円	1億1,508万円	106.8	284万円		
	簡易水道	1,905万円	1,111万円	76.9	794万円		
	公共下水道事業	22億5,471万円	22億5,187万円	105.5	284万円		
	農業集落排水事業	2億1,493万円	2億1,493万円	96.7	0万円		
	浄化槽市町村設置推進事業	2億7,955万円	2億7,955万円	125.4	0万円		
	上西郷財産区	194万円	50万円	86.2	144万円		
	桜木財産区	5万円	5万円	55.6	0万円		
	東山財産区	299万円	214万円	18.9	85万円		
	佐束財産区	1,515万円	1,239万円	183.6	276万円		
企 業 会 計	水道事業	収益的収支	27億8,639万円	28億3,697万円	101.2	-5,058万円	
		資本的収支	2億6,317万円	10億982万円	75.0	-7億4,665万円	
	病院事業	収益的収支	81億1,807万円	78億5,785万円	94.9	2億6,022万円	
		資本的収支	13億2,666万円	11億5,704万円	194.6	1億6,962万円	
合	計	800億6,183万円	778億2,636万円	99.5	22億3,547万円		

収益的収支
1年間の事業活動に関する水道料や病院の入院、外来の診療料などの収入と、材料費や電気料、職員の給与などの支出のこと。

資本的収支
将来にわたる維持管理に必要な企業債や一般会計出資金などの収入と、水道管布設などの投資的経費や企業債の元金償還金などの支出。

水道事業会計における不足額は、当年度分および過年度分損益勘定留保資金などで補てんされています。

掛川市の財政の健全性を示す5つの指標

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定により、平成23年度決算に基づく4つの健全化判断比率と公営企業の資金不足比率を算出しました。

平成23年度は、いずれの指標も財政上のイエローカードを表す「早期健全化基準」を下回り、健全性が保たれていることを示しています。

今後は、新病院の建設などに伴い、将来負担比率などの数値が一時的に上昇することが予想されますが、引き続き健全な財政運営に努めていきます。

健全化判断比率

地方公共団体の財政の健全性を判断するための指標で、「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」の4つがあります。この4つの比率を、「早期健全化基準」（財政上のイエローカード）、「財政再生基準」（財政上のレッドカード）と比較し、基準を上回ると財政健全化計画の策定が必要になります。



5つの指標全部が財政上のイエローカードを表す「早期健全化基準」を大きく下回っているから、掛川市の財政は健全ということがわかるね。指標の数値も前年に比べて好転しているよ。詳しくは左のページを見てね。

お茶のまち掛川
マスコットキャラクター
茶のみや きんじろう